

日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

赤十字NEWS

in TOKUSHIMA ニュース in 徳島

日本赤十字社徳島県支部
徳島市庄町3丁目12番地1
TEL.088-631-6000
FAX.088-631-6100
https://www.tokushima.jrc.or.jp

Vol.40
2019.12



中・四国9県の日赤が訓練で結束 大災害に備え、赤十字の思いを一つに

平成から令和へと改元され、半年以上が経った。災害の時代と言われた平成から令和になった今年も、九州北部豪雨、台風15号や台風19号、といった災害が日本各地で甚大な被害をもたらしている。

こうした危機感の中、11月9日・10日に鳥取県にて、日赤救護員や行政機関、ボランティア約350名が集まり「中国四国各県支部合同災害救護訓練」を実施した。

この訓練では、M7.2の大規模地震発災時を想定し、赤十字独自のネットワークで速やかに被災地へ参集した後、市内に点在するそれぞれの避難所で、迅速で適切な医療救護活動が行えるよう相互支援体制や防災関係機関との情報共有を図った。当支部救護班は、避難所で救護所を設置し、アセスメントや診療を行った。

近年、徳島県では大きな人的被害は発生していないが、南海トラフ大地震や予期せぬ大雨災害により、甚大な被害を受けることも懸念されている。当支部では皆さんの支援のもと今後も災害に備え、活動を続けていく。



●救護班は患者の搬送や診察、トリアージなどを行った

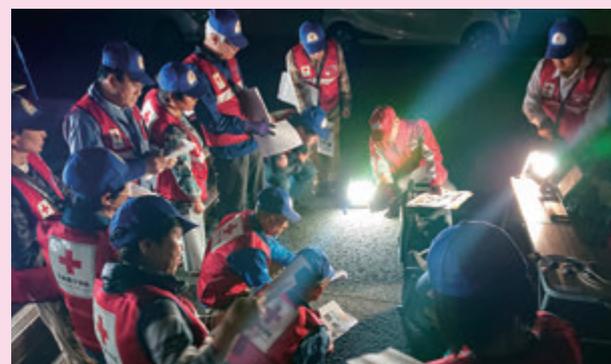
停電を想定した避難所支援訓練

—徳島県赤十字救護救援奉仕団研修会—

11月1日、救護救援奉仕団が、停電を想定した避難所支援訓練を実施しました。

訓練では、近年、災害が起因となる停電が多発していることを受け、徳島県支部が新たに整備した「ハイブリット発電機」や「LED投光器」等の取

扱いを習得し、避難所での「食」の支援を想定した炊き出し支援訓練を実施。参加した団員からは、「暗闇では表情がみえないので、いつも以上に声をかけあう事が必要。災害時にはしっかりと支援していきたい。」と強い決意を述べました。



●発電機などの使用方法を学ぶ救護救援奉仕団員

赤十字活動に力強い ご支援をいただきました

●阿波銀リース株式会社 様

創業45周年を記念して、災害時活動用資材（ハイブリッド式発電機、LED投光器）と透析監視装置を寄贈いただきました。

発電機と投光器は、大規模停電時等における昼夜を問わない切れ目のない救護活動に活用し、透析監視装置は、年間約8,800件の人工透析を行う徳島赤十字病院において、患者様の命をつなぐために医療の現場で活用します。



- 透析監視装置4台
- ハイブリッド発電機7台
- LED投光器14台

●七福興業株式会社 様

創業60周年を記念して、血液運搬緊急車両と高規格人工呼吸装置を寄贈いただきました。

血液センターが24時間体制で行う血液製剤の運搬に活用し、高規格人工呼吸装置は、高度救命救急センターを設置し日々多くの救急患者等を受け入れている徳島赤十字病院で、重度の呼吸器障害患者さんの呼吸管理等に活用します。



- 血液運搬緊急車両1台
- 高規格人工呼吸装置2台

「軽量・簡単テント」で、防災力強化

徳島市内11地区に、赤十字災害時活動用テントを配備

支部創立130周年記念事業の一環として、防災力の更なる向上を目的とし、県内全市町村への「赤十字災害時活動用テント」の配備を進めています。

同テントは、コンパクトに折りたたむことができ、総重量約50kgで従来の同規模テントに比べ軽量なうえ、設営方法はとても簡単です。

9月3日、赤十字活動の支援団体である「徳島県赤十字有功会」のご協力により、徳島市内で未設置の11地区へテントを配備することになり、当支部事務局において贈呈式を行いました。

災害時の炊き出しでは、雨や日差しを防ぎ衛生環境を確保することができ、平時には地域の様々な行事に活用できます。

これで「赤十字災害時活動用テント」の県内市町村への配備数は54張となりました。



●テントの設営方法を学ぶ奉仕団員

遠く離れた地でもつづく交流 山形県奉仕団が来県

9月4日山形県赤十字奉仕団が研修旅行のため来県されました。

研修を終えた奉仕団員からは「地域に根付いた、力強い活動を見せていただくことが出来ました」「これからも交流を続け、お互いがんばりましょう」と意欲にあふれた意見が聞かれました。

山形県赤十字奉仕団と徳島県赤十字奉仕団は、東日本大震災の被災地での炊き出しを合同で行ったことから交流がつづいており、今回の研修旅行では赤十字ゆかりの地の視察および人道紙芝居の鑑賞、東部地区勝浦町奉仕団と意見交換を行いました。



●東日本大震災で炊き出しを行う両県奉仕団(2011.9)

また、徳島赤十字病院の視察も行い、急性期医療の中核である救急部の見学や地域医療の現況についての説明を受

「避難生活」に目を向けて 血栓防止用ストッキング整備

突然、不自由を強いられる「避難生活」。

日本赤十字社は、災害が発生すると、ただちに医療救護班を派遣。避難所の巡回診療や救援物資の配布など避難された方の支援にあたります。

体育館や、車中での避難生活が続くと、生活環境の激変からエコノミークラス症候群の発症リスクが特に高まります。

平成28年4月の熊本地震では、発災1週間で約50名の方が同症候群を発症したと言われ、これによる死者も出ました。

これを受けて、当支部では、今年度新たに「血栓防止用弾性ストッキング」を整備。今後も避難所の健康二次被害防止など、被災者支援に目を向けた救援物資の備蓄の強化に努めてまいります。

こうした活動は、皆様から寄せられた「赤十字活動支援費」を原資としておりますので、赤十字活動へのご支援・ご協力をお願いします。



●避難所での血栓症予防対策を実施する徳島県支部救護員(H28.6熊本県阿蘇)



●血栓防止用ストッキング

その苦しみは、きつと今も続いています

赤十字国際救護員
徳島赤十字病院看護師
勝占智子

現地で暮らして始めて分かることがある

紛争や自然災害、貧困などによって心身が傷つき、今も苦しんでいる人が世界にはあふれています。そんな人や地域を支援し、一人でも多くの笑顔を取り戻すために日本赤十字社が継続している活動が「赤十字国際救護員」の派遣。自らの希望によって専門的な研修を受けたプロの職員が現地へ赴き、数カ月をわたって国際救援や開発協力の要員として活動しています。

「水道水がない地域では、安全のために水を沸かしてから飲むよう伝えます。しかし実際に灼熱の現地で暮らしてみると、それがいかに難しいかを実感させられます」と勝占さんは話します。

関心を持つことが救済の出発点

勝占さんの国際救護員としての活動は計5回。ネパール地震救援やバングラデシュの避難民支援など、さまざまな事情や違う苦しみを抱えた現場を経験してきました。北イラク(クルド地域)の病院看護では、テロによる爆風で顔がつぶれた子どもの患

者と向き合ったこともあったと言います。「テレビや新聞だけでは世界の現状を知ることは難しい。東日本大震災もそうですが、報道が一段落すれば、その問題が解決したような錯覚に陥ってしまいます」

勝占さんが担当した地域の苦しみは、今もなお続いています。年月とともに世界からの支援機関が現地から少しずつ撤退していく中、日本赤十字社は新たな国際救護員を派遣しながら継続的な支援を続けています。

「苦しむ人々にとって、忘れ去られることが一番怖い。まずは、世界の現状に関心を持っていただければ。そして、もし私たちの活動に共感していただけたな

ら、一人でも多くの方にご支援やご協力を賜りたい」と勝占さん。その優しく力強い視線は、すでに次の現場へと向けられています。



●勝占さんが赤十字国際救護員として派遣された5カ国。今もなお助けを求めている人がいます



●バングラデシュでは、67万人を超えるミャンマーからの避難民を救護するために活動



●クルド地域の戦傷外科病院では、約2カ月にわたって負傷した人々の看護に従事



●シリアの情勢不安からヨルダンへと避難してきた子どもたちと一緒に

子どもの尊い命を守るために 幼児安全法支援員養成講習を開催

9月28日・29日の2日間、とくしま赤十字災害救護サポートセンターにおいて幼児安全法支援員養成講習を開催し、24名が参加しました。

この講習では、乳幼児の病気や事故の予防、応急手当の知識や技術を習得し、2日目に行われる試験に合格した

方は、赤十字幼児安全法支援員の資格が得られます。

当支部では、昨年度新たに6つの幼稚園が青少年赤十字に加盟したことを受け、幼児安全法の普及に重点的に取り組んでいます。



●手厚い指導に笑顔で取り組む受講者の皆さん



「たすけあい」の心で海外支援 ～赤十字の若い力が県民に呼びかける～

今年度も12月1日から25日まで、海外で苦しんでいる人を支援するための海外たすけあい募金活動が行われます。

この活動は、シリアやイラクなどの武力紛争犠牲者に対する支援やアフリカ地域食糧危機救援事業、アフリカやアジア地域での保健支援事業など、苦しんでいる人々を支援するために、NHKと協働で行われているものです。

毎年12月中旬には、青少年赤十字徳島県高校生協議会のメンバーと、徳島県青年赤十字奉仕団員が丸となり、手作りの資材を持って力強く協力を呼びかけています。若い力を合わせて活動に取り組み、青少年赤十字の実践目標である「国際理解・親善」を図ります。

皆様の「たすけあい」の心で、ご協力をお願いします。



●徳島駅前でも協力を呼びかける高校生メンバー





人間を救うのは、人間だ。

日本赤十字社 スローガン

四国大学 芳藍祭に献血バス

～若い世代から若い世代へ広がる献血の輪～

11月7日、四国大学の学園祭「芳藍祭」で献血セミナーを行いました。職員に代わり学生の献血ボランティアが、大学生や一般の参加者に熱弁をふるうと、受講した学生からは「献血者が減っているのを知った。他人事だと思っていたが、協力したくなった。」と献血に協力してくれました。

当日は58名の方から献血の協力があり、大盛況のうちに終わりました。



献血セミナーで勉強中!



献血ありがとうございました!

学生ボランティア大活躍!!

マチ★アソビ DE ケツエキ アツメ

台風19号の影響により延期となったマチ★アソビVol.23。イベントの開催が危ぶまれましたが、当日は多くの来場者に恵まれました。

10月26日は藍場浜公園に献血ブースを設置し、コスプレイヤーが会場に華を添えるなど、イベントを楽しみに来た方たちに存在をアピール。

期間中、献血バス、献血ルーム アミコ合わせて約800名の協力をいただき、記念品を手にした献血者からは笑顔がこぼれていました。



鬼滅の刃のコスプレイヤー続出!!

親子で楽しくけんけつ教室

7月と8月の計4日、親子で献血について体験するイベントを開催し、125組312名の方が参加しました。

献血バスのベッドに寝てみたり、恐る恐る模擬腕の血管に針を刺したり、普段見ることができない輸血用の血液に驚いていました。

近い将来、献血者として再び会える日を楽しみにしています。

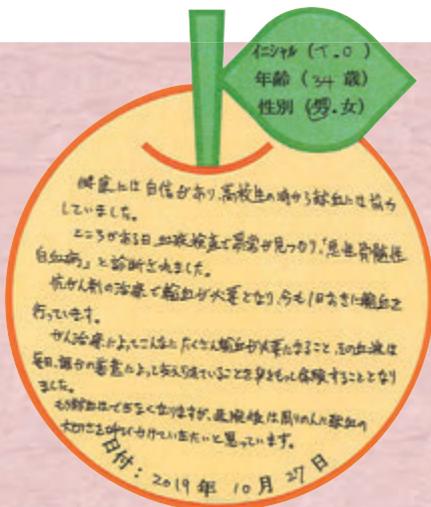


...ドキドキ

ありがとうのメッセージ

健康には自信があり、高校生の時から献血には協力していました。ところがある日、血液検査で異常が見つかり、「悪性骨髄性白血病」と診断されました。抗がん剤の治療で輸血が必要となり、今も1日おきに輸血を行っています。がん治療によってこんなにたくさん輸血が必要となること、その血液は毎日誰かの善意によって支えられていることを身をもって体験することとなりました。もう献血はできなくなりますが、退院後は周りの人に献血の大切さを呼び掛けていきたいと思っています。

T.O 34歳 男性



輸血を受けた患者さんの「ありがとうのメッセージ」は献血バスや献血ルームアミコに掲示しております。



「献血セミナー」してみませんか?

徳島県赤十字血液センターは、献血の大切さや命の尊さを伝えるための出張教室を開催しています。職員がみなさんの学校や会社、地域にお伺いさせていただきます。

社会貢献活動について学ぶ一環として、献血を活用した地域活性化の一助として、授業や研修、イベントなどにご活用ください。

400mL献血に
男性3回/年 女性2回/年のご協力を!
年1回からあともう1回を!

成分献血は前日までにご予約を。
0120-688-950

まずはお電話でご相談を!

0120-688-994

- ★ 費用はかかりません!
- ★ 短い時間からもOK!
- ★ 少人数も大歓迎!



徳島県赤十字血液センター

検索

●日本赤十字社徳島県支部管内の赤十字施設をご案内します●

日本赤十字社徳島県支部事務局 徳島市庄町3丁目12-1 TEL.088-631-6000
 徳島赤十字ひのみね総合療育センター 小松島市中田町新開4の1 TEL.0885-32-0903
 徳島赤十字障がい者支援施設ひのみね 小松島市中田町新開4の1 TEL.0885-32-0903

徳島赤十字乳児院 小松島市中田町字新開2-2 TEL.0885-32-0555
 徳島赤十字病院 小松島市小松島町字井利ノ口103番 TEL.0885-32-2555
 徳島県赤十字血液センター 徳島市庄町3丁目12-1 TEL.088-631-3200